

## 令和3年度 鳳凰会グループ 年頭挨拶

令和3年1月19日

### 〈林 瑞香会長より〉

明けましておめでとうございます。

初めに、毎年行われていた総会ですが、昨年より感染対策を重々考慮し、安全を確保の上行う準備を進めておりましたが、この度の緊急事態宣言発令に伴い中止の運びとさせていただきました。

このような形での挨拶となってしまったことをお詫び申し上げます。

さて、昨年は世界中の人々にとってコロナウイルス感染症に翻弄され、不安の多い一年となりました。残念ながら、今なおその勢いは収まらず、収束の目処もつかない状況です。

当グループにおいても、医療部門・介護部門はもちろん、多くの分野で影響を受けたと思います。

経済的なことはもちろんですが、なによりグループで働く皆様の安全をいかに確保するかが、一番の課題であったと思います。

職員皆様のなかには、過剰な対策と思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、やはり医療・介護の現場は常に感染のリスクに晒されており、そこで働く皆様の安全性の確保、精神的な不安を少しでも取り除くことができればと思ってお応えさせていただいております。

まだ足りない部分もあると思いますので、改善点があれば是非提案いただければと思います。

全国的にクラスター発生が起こる中、当グループでは大きなクラスター感染は起きておりません。これはスタッフ皆様の普段の危機管理、行動変容の賜物であり、深い感謝とともに非常に誇らしく思います。

ここまで耐え、危険を強いられたにもかかわらず、医療従事者や介護従事者に対し差別的な言動を受けることがあります。私自身、現場でそのような発言を受けたこともありました。どうしたら差別や偏見が無くなるかと考えてみても、解決策はなく我慢するしかない現状に憤りを覚えます。

反対に労りの言葉や感謝の言葉を頂くこともあります。

そういった応援の声を励みに、また一年、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思いますので、お力添えよろしくお願い致します。

先が見えず、疲労・不満も溜まってきていると思いますが、まずは体調第一で今後とも感染対策に尽力してください。長くなりましたが、以上、会長挨拶とさせていただきます。

### 〈赤津会長代理より〉

新年明けましておめでとうございます。

例年とは違う年末、年始を過ごされた事と推察しています。「みんな大変だろうな」は共通の思いですが、今年は実行力が問われる年になると思います。

東日本大震災が起きてから今年の3月11日で丸十年となります。発災当時、自然の力で断ち切られた人と人との絆をつなぎ直すことにたくさんの人々が心を寄せていたことを思い出します。

毎日、テレビのACジャパンのCMで詩人の宮澤章二さんが作った「行為の意味」が流されてきました。

*あなたの「こころ」はどんな形ですかと 人に聞かれても答えようがない*

*自分にも他人にも「こころ」は見えない けれどほんとうに見えないのであろうか*

*確かに「こころ」はだれにも見えない けれど「こころづかい」は見えるのだ*

それは 人に対する積極的な行為だから  
同じように胸の中の「思い」は見えない けれど「思いやり」はだれにでもみえる  
それも 人に対する積極的な行為なのだから  
あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき  
「心」も「思い」も、初めて美しく生きる それは人が人として生きることだ

昨年来の新型コロナウイルス感染症の世界的流行の中で、ある小説が読まれました。ノーベル賞作家のカミュが70年以上前に書いたペストです。アフリカの都市でのペストの流行と都市封鎖、そこで奮闘する医療者や市民の姿が描かれています。何の罪もない人々を襲うペストという不条理の中で、多くの人々が私情を捨てて、みんなのために「誠実な行為」を行いました。古今東西、あたたかい行為とは同じものなのです。明治の文豪、夏目漱石も虞美人草の中で「真面目とは実行することである」と述べました。

病院、施設、事業所での毎日の仕事（我々の場合、個人並びにその集合体としての鳳凰会グループの総力で患者様、利用者様を支えている）をしていて、良かったと思える時はどんな時でしょうか。

一番には職員の皆様的一所懸命な行為に対して、患者様、利用者様から「ありがとう」の言葉を頂けた時でしょう。では、次は何かと言うと、私の場合は職員の皆様一人一人の尽力により、患者様、利用者様の毎日が大過なく過ぎることです。言葉を話せない、意思表示ができない、決して良くなることのない病気や障害を抱えた患者様、利用者様であっても皆様のお世話で一日一日、穏やかに過ごせたら良かったと思います。ある場合にはあの世に召されるきれいな姿を見ても、良かったと思います。

勿論、病気や体調が良くなって、愛する御家族や元の場所に戻る姿を見ても良かったと思います。

真心のこもった職員の皆様の一つ一つの行為のつながりがあってこそ、実感のある「良かった」が組織全体に広がっていくと思います。鳳凰会グループが「こころづかい」と「思いやり」に溢れた「誠実な行為」や「実行」の場となるよう、一緒に精進して参りましょう。

最後となりますが、現在のコロナ下、医療・介護は勿論大変で、心休まらない日々ですが、多くの地域住民の皆様も不安の中、生活しているでしょう。我々、医療や介護に従事する者は新型コロナウイルス感染症に対応する正しい知識、対処法を住民の皆様よりも深く知っています。この度は地域のため、我々が実践している新型コロナウイルス感染症対策を教えてあげてください。我々全員がチームとなって、指導し続ければ、正しい行動が地域全体に広がっていくでしょう。

全ての人々にとって、本年が昨年よりも良い年となることをお祈り致します。職員の皆様の御意見を頂きながら、鳳凰会グループをさらに良くできるように会長を支えて参ります。共に元気澆刺、笑顔で前進し、「患者のため、地域のため、仲間のため」一丸となって精進して参りましょう。

#### 《社会福祉法人桜楓会 鍵本理事長より》

カリヨンの社は重症心身障害児の入所施設として平成30年にオープンし、今年で3年目を迎えました。事業内容は、主として医療的ケアを要する重度の心身障害を持ったお子さんたちの入所治療、管理です。現在稼働予定60床のうち40床を運営し、コロナの自粛要請で短期入所の減少した3-5月期には稼働率が70%程度に下がったものの、最近では80%超を維持し、長期入所は当初28床の予定であったものは、現在32床に拡充され、順調に運営されております。短期入所は、1日平均4-5名をお預かりしていますが、どんどん増加する傾向はないようです。外来、リハビリ、デイケアに関してはおおきな変動なく推移しています。

結果、診療報酬等の平均4600万円/月、補助金等を入れると5000万円/月の収益を確保でき、通年では

約 4000 万円の増収を見込んでいます。昨年の本会で、2019 年 9 月に黒字転換した後、ここへきてようやく安定した収支が見込めるところにたどり着きました。年内には何とか賞与の支給ができ、正直ほっとしているところでもあります。

この間大きな事故なく、院内死亡もなく、ご家族からはおおむね良好な評価をいただくとともに、一時は退職願の多かったスタッフも落ち着き、入職希望者も増加しております。スタッフ一同、心を合わせて取り組んできた結果と、施設長として職員の皆様には心からの感謝を顕したいと思えます。

コロナに対しては早い段階から開設前のみどり病棟の陰圧室を利用した対応病床の設営を進め、発熱外来、PCR 導入などで障害のあるお子さんたちへの、対応をしております。来るワクチン接種には病院として行政に協力し、Deep freezer の配給を受けて、高齢者やハイリスク者の接種を行うミッションに手上げをしております。ワクチンで鎮静化した Post corona には緑病棟を開設し、引き続き多くのお子さんに利用される施設として整備をすすめたいと思っています。コロナはかならず終息しますので、その後のことを見通し、今から準備することが重要と考えております。皆様方のご健康とご活躍を御祈り申し上げます。